

平成20年 3 月 1 日発行

発行：学校法人皇學館
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308
E-mail : soumu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報

第15号

■伊勢学舎

[法人本部・大学院・専攻科・文学部]
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

■名張学舎

[大学院・社会福祉学部]
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0595・61・3351(代) FAX0595・61・3350

●インターネットホームページ

http://www.kogakkan-u.ac.jp

千玄室大宗匠が講演

「日月庵」の茶室披露も

茶道裏千家の前家元である千玄室氏が一月二十五日、本学伊勢学舎の記念講堂において「信じ合う心―伝統教育に期待する―」と題し講演した。千氏出席のもとこの日は昨年十二月二十日に竣工した記念館の茶室「日月庵」の茶室披露も行われ、学生や学校関係者、一般の方などあわせて約千名が参集。学園内は終日華やいた空気に包まれた。

「文武両道」など 和の精神文化の大切さ訴える

青空広がる一月二十五日、裏千家前家元・千玄室氏の講演が本学伊勢学舎の記念講堂にて開催された。現在、玄室氏は文部省社会教育審議会委員など多くの公職を歴任し、茶道文化の浸透・発展と世界平和に向け国際

社会を舞台に精力的に活躍されている。今回の来学は昨年十二月竣工の記念館に裏千家ゆかりの茶室が寄贈された縁で実現したものだ。

「信じ合う心―伝統教育に期待する―」と題した講演では茶道において



戦没学徒慰霊碑



「一盃からピースフルネスを」を提唱し、世界62カ国を250回以上歴訪するなど幅広く活躍されている千玄室氏。



茶室披露当日は一般客を招いてのお茶会や雅楽鑑賞会が催された。

「日月庵」茶室披露 扁額は玄室氏の揮毫

講演の前には記念館内の茶室「日月庵」の茶室披露が行われた。

茶室は京都・東山の土井家から譲り受けたもので、当初は奇棟茅葺きであったが、移築時に入母屋柿板葺きとし小間の茶室様式を受継いだ。柱には靖国神社旧参集殿の檜御柱三本が使用されている。

午前九時に始まった茶室披露には鷹司尚武神宮大宮司をはじめ森下隆生伊勢市長らが出席。扁額は玄室氏の揮毫。茶室披露、講演会が終了した後は、記念館を一般の来学者に開放。大広間では着物姿や礼装の本学茶道部学生がそれぞれ



千玄室氏より上杉理事長に目録贈呈。



左から、森下隆生伊勢市長、鷹司尚武神宮大宮司、千玄室氏、上杉千郷本学理事長、小串和夫本学副理事長、伴五十嗣郎本学学長。

神宮皇學館のシンボル甦る

着工からおよそ九カ月を経て竣工した新・記念館は木造平屋で、延べ床面積は約五百五十平方メートル。唐破風造りの玄關を備えており、堂々とした風格を漂わせる。また、柱などを再利用することで大正期の建築様式

をそのままに残した。館内には旧館長室、貴賓室を復元。貴賓室には本学の歴史を物語る資料が展示されている。

昨年十二月二十日に執り行われた竣工祭には神社界並びに文化庁や県、施工、学校関係者など約五十人が列席した。祭典では無事に竣工の日を迎えられたことへの感謝の祈りを込め、学生が舞を奉納。本学の祭祀研究部や雅楽部の学生が祭員や伶人、舞人として奉仕した。



唐破風造りの玄關を備えた建物。館内には大広間を設置し貴賓室も復元された。

記念館の歴史

T 8 年10月	神宮皇學館が宇治館町から倉田山に移転したのに伴い、本館として建築
S21年	神道指令により廃校となり、伊勢市立倉田山中学校校舎となる
S37年	皇學館大学再興
S47年10月	伊勢市から無償譲渡により校地内に移築、祭祀教室として使用
H16年 9 月	耐震強度不足により教室としての使用を中止する
H18年 8 月	文化庁の登録有形文化財(建造物)に登録
H19年12月	現在地に移築、耐震補強を行い記念館として再び使用する

創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付者芳名 14

創立百三十周年・再興五十周年記念事業募金につきまして、学内外の方々から変わらぬ励ましの声とともにその後も多くのご芳志をいただきました。みなさまのご理解とご好意に對して心より厚く御礼申し上げます。ご協力いただいた方々の芳名を掲載させていただきます。事業活動の一層の充実をはかるべく、今後ともどうぞよろしくお願い致します。芳名掲載につきましては、一月二十日までの到着分とさせていただきます。

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金進捗状況			
平成20年 1 月20日現在			
区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	613	747,967,000	634,757,000
館 友	668	74,889,000	66,924,000
篤 志 家	40	29,190,000	29,030,000
萼 の 会	1,531	59,543,000	59,543,000
企 業	101	58,755,000	54,805,000
本法人関係	239	56,342,000	50,637,500
合 計	3,192	1,026,686,000	895,696,500

宗教界(神社界)

青森県	二十万五千元	小祝神社様
十万円	青森県神社庁北郡支部様	(高崎市石原町)
支部様	十万円	新田神社様
(五所川原市金木町)	五万円	倉賀野神社様
群馬県	五十万円	(高崎市倉賀野町)
五十万円	群馬県神社庁伊勢崎佐波支部様	東京都
三十万円	群馬県神社庁吾妻支部様	二十万円
三十万円	進雄神社様	芝大神宮様
(高崎市紫崎町)	二万円	(港区芝大門)
三万円	貴船神社様	岐阜県
(山田郡大間々町)	二万円	古井神社様
二十五万円	高崎神社様	(加茂郡富加町)
(高崎市赤坂町)	一万円	千種神社様
京都府	十万円	(三重郡菟野町)
十万円	豊國神社様	奈良県
(京都市東山区)	六万円	春日大社様

館友(個人)

秋田県	五十万円	橋本 浩一様
福島県	一万円	鎌田 利靖様
十万円	宇佐神正文様	滋賀県
五十万円	須田理恵子様	十万円
群馬県	五十万円	野村 郁雄様
五十万円	大塚 恭子様	社 信之様
五十万円	大塚 祐康様	井口 幸恵様
埼玉県	五十万円	山本 豊和様
十万円	黒岩 昭彦様	山本 豊和様
千葉県	十万円	工藤 道廣様
一万円	立原 圭浩様	大寄 敬大様
東京都	五十万円	岡崎 忠秀様
十万円	千艘 光幸様	岸本 素信様
神奈川県	十万円	須田 晃央様
石川県	十万円	坂本 明道様
福井県	五十万円	寺下 玉幸様
長野県	五十万円	北澤 道生様
岐阜県	五十万円	栗本 明徳様
五十万円	平 智恵様	静岡県
五十万円	宇佐美洋二様	五十万円
五十万円	日下部元樹様	愛知県
五十万円	佐古 大幸様	五十万円
五十万円	戸塚 昌宏様	大村 昭人様
五十万円	廣田 欣之様	鈴木 茂生様
三重県	五十万円	幡掛 節子様
十万円	山本 博美様	樋口 義洋様
十万円	小串 芳夫様	

萼の会(保護者の会)

文学部神道学科	三万円	尾崎 俊廣様
三万円	田中 崇晶様	文学部国文学科
三万円	中村 守男様	三万円
	河原 隆司様	

篤志・その他

山口県	三万円	津村 治之様
徳島県	五十万円	助石 信弘様
香川県	十万円	宮崎 康定様
高知県	五十万円	森本 康夫様
兵庫県	五十万円	小田 文雄様
十五万円	國光 健一様	福岡県
五十万円	野村 智範様	五十万円
五十万円	原田 俊明様	波多野道彦様
五十万円	馬場 忍様	松岡 彊様
大分県	五十万円	小深田盛行様
奈良県	五十万円	水島 和良様
三万円	米田 裕彦様	鳥取県
三万円	坂田 晃俊様	岡山県
三万円	齋藤 直樹様	三万円
広島県	三万円	三上 重幸様
五十万円	村田 典子様	三重県
三万円	村田 典子様	三万円

企業

三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円

本法人関係

三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円
三万円	村田 典子様	三万円

本人確認にご協力ください!

平成19年1月4日から、本人確認手続に関する法令の改正により、金融機関において10万円を超える現金をお振込みされる場合には、**本人確認書類**の提示が必要となります。提示がない場合には、金融機関では10万円を超える現金によるお振込みができません。10万円を超える寄付金を現金でお振込みの際には、振込用紙とともに来店される方の本人確認書類をご用意のうえ、金融機関の窓口をご利用ください。

本人確認書類 運転免許証、健康保険証、パスポート等公的証明書

法人の場合、登記簿謄本等の提示を求められる場合がありますので、詳しくはお振込みを依頼する金融機関にお問い合わせください。

皇學館大学 問い合わせ先 記念事業推進室 ☎0596-22-6313

知事トーク in キャンパス

野呂知事が来学 学生と活発な意見交換



「地域をもっと好きになるまちづくりと一緒にめざしましょう」と県政にける思いを語る。

野呂昭彦三重県知事が一月十七日に本学伊勢学舎を訪れ、約三百名の聴衆を前に三重県の将来ビジョンや大学への期待などについて熱く語り、学生たちと活発な意見交換を行なった。

「知事トーク in キャンパス」と題し開かれたこの催しは、次世代を担う若者たちの率直な意見を県政に役立てたいという野呂知事の意向を受けて実現したもの。昨年十月

地域の知の拠点である

大学へ熱い期待

政の取組」が開催された。講演の中で知事は倉田山で過ごした高校時代の思い出話や松阪市長時代のエピソードなどを交えつつ、昨年度から取り組んでいる「県民しあわせプラン」の基本理念をOH Pを使いながら説明。「県

知事と学生たちによる

活発な質疑応答

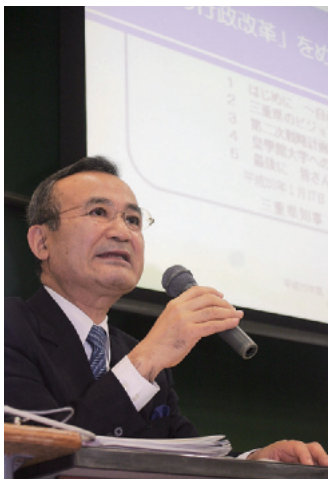


学生からは次々と質問が飛んだ。



いい機会になったと北村さん。

講演会の後、質疑応答の時間になると学生からは矢継ぎ早に質問の手が上がり、予定を十五分ほどオーバーするなど盛り上がりを見せた。野呂知事は「リーダーの条件とは「伊勢神宮・外宮前の開発について」など職務や地域に関する質問に丁寧に答えながら時には学



行政まかせではなく、自ら行動する人になってほしいと野呂知事。

本学が周年記念事業の一環として取り組んでいる「第六十二回神宮式年遷宮奉賛記念講演会」の平成二十年開催地が大阪・島根に決定した。講演予定は左記の通り。
 ※左記のほか、鳥取県・山形県でも開催の予定です。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業募金活動は、十九年六月、正式にスタートいたしました。これは、募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いているものでありますが、一月二十日現在での募金状況は、次の通りになっております。ご協力いただいた皆さまのご理解に感謝申し上げますと同時に、今後のご賛同・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成19年度 皇高祭での吹奏楽部の演奏風景

募金目標額 2千万円

募金期間 平成19年6月から
平成25年3月までの6年間

寄付の種類

【法人】 一口の金額は特に定めておりません。分納もお受けいたします。

【個人】 一口 **5千円**
※できれば二口以上をお願いいたします。

問い合わせ先
学校法人 皇學館 記念事業推進室
 〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
 TEL 0596-22-6313 FAX 0596-27-1704
 E-mail suishin@kogakkan-u.ac.jp



個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきます。 ■教職員／1名

平成二十年度 月例文化講座のご案内

本学が生涯学習の一環として一般市民を対象に開いている「月例文化講座」および「皇學館大学文化フォーラム」の平成二十年度日程が決定した。月例文化講座は昭和三十七年の再興と同時に開始。以来、伊勢市や名張市民を中心に毎年熱心な聴講生が集い、好評を博している。今年は神道学科、社会福祉学科が担当。それぞれ「式年遷宮」、「社会福祉の新たな展開」次の十年に向けて」を年間テーマに据え、学内の教授陣を講師に幅広い視点からさまざまな演題を考察する。

聴講はいずれも無料。詳しくは下記問い合わせ先まで。

平成20年度
月例文化講座

担当学科	年間テーマ	開催日	演題	担当者	会場	開始時間	お問い合わせ	
伊勢	神道	「式年遷宮」	① 5月10日(土)	式年遷宮の祭りといふ	教授 本澤 雅史	伊勢学舎 4号館431教室	午後2時	総務課 ☎0596-22-6308
			② 6月14日(土)	古代の式年遷宮	教授 井後 政晏			
			③ 7月12日(土)	中世の式年遷宮	教授 白山 芳太郎			
			④ 9月13日(土)	近世の式年遷宮	准教授 松本 丘			
			⑤ 10月11日(土)	近代の式年遷宮	教授 新田 均			
			⑥ 11月8日(土)	宗教学から見た式年遷宮	教授 河野 訓			
			⑦ 12月13日(土)	憲法学から見た式年遷宮	教授 富永 健			
名張	社会福祉	「社会福祉の新たな展開」 一次の10年に向けて一	① 4月19日(土)	人はなぜボランティアをするのか？	准教授 守本 友美	名張学舎 1号館	午後2時	管理課 ☎0595-61-3351
			② 5月24日(土)	心身の病いや障がいをもたらす生活課題	准教授 安井 豊子			
			③ 6月21日(土)	「通算100回記念」地域で育てる・地域を育てる一とにある10年一	教授 櫻井 治男			
			④ 9月20日(土)	『格差社会』に負けない地域再生	教授 山路 克文			
			⑤ 10月18日(土)	子どもを支える地域教育活動	講師 藤井 恭子			
			⑥ 11月15日(土)	精神障がいのある人が地域で生活するには？	講師 榎本 悠孝			
			⑦ 12月13日(土)	高齢者の介護が私達に示唆するもの	講師 野尻 京子			
国文	特別講座	7月26日(土)	江戸川乱歩と名張	准教授 三品 理絵	名張学舎 1号館	午後2時	管理課 ☎0595-61-3351	
国史		8月30日(土)	『平家物語』巻第一「祇園精舎」を読む ～国史学と仏教学の立場より～	講師 多田 實道				
四日市	教育	教育学部開設記念・社会福祉学部開設10周年	① 6月7日(土)	変革期を迎えた幼児教育・保育の課題	准教授 田口 鉄久	じばさん三重	午後1時30分	総務課 ☎0596-22-6308
	社会福祉		② 7月5日(土)	特別支援教育の授業づくりー授業研究者の視点からー	教授 太田 正己			
	コミュニケーション		③ 8月2日(土)	ネット/ケータイが埋め込まれた社会 ～その病理と新たなリテラシー～	講師 前田 至剛			
檀原	社会福祉	社会福祉学部開設10周年・教育学部開設記念	① 6月7日(土)	幼稚園と保育所のこれからを考える	准教授 吉田 明弘	檀原観光ホテル	午後1時30分	管理課 ☎0595-61-3351
	教育		② 7月5日(土)	品格ある人生を～伝統文化と家庭・地域・学校～	教授 大串 兎紀夫			
	神道		③ 8月2日(土)	伊勢の神宮と日本人 ～いのちと血統の連続～	学長 伴 五十嗣郎			

平成20年度
學館大学文化ライム

学園ニュース

学生が企画するラジオ番組 キャンパスキューブ Campus CUBEが スタート

放送局 三重FM放送
放送期間 ~平成20年10月 5 日
放送日 毎週金曜日 20時30分~20時55分

昨年10月5日より本学、三重大学、鈴鹿国際大学が合同で運営するラジオ番組「キャンパスキューブ」がスタート。県内の大学が連携して放送番組を制作する初めての試みとして注目を集めている。パーソナリティーは各大学の学生が持ち回りで担当。若者ならではの視点から大学や地域の取組み、活動を伝え、幅広い年齢層に聴いてもらえる構成をめざす。

企画からしゃべりまで
すべて学生が主軸

「キャンパスキューブ」は毎週金曜日の午後八時三十分から二十五分間放送される。進行役を務める一人を除きみんな学生。企画や構成、選曲、トークまですべてを受け持つ。本学から同番組のパーソナリティーとして出演しているのは文学部コミュニケーション学科三回生の坂本裕紀さんと加藤晃子さんだ。二人ともゼミの先生に声を掛けられ、貴重な経験ができると思い即、引き受ける決心をしたという。

番組を作る苦労を実感

番組では「チャカ」というニックネームで呼ばれている坂本さん。慣れないところは話を制限時間内に収める、雑音を立てないなど基本的なこと頭がいっぱいだったが、今はリスナーにどう届ける

共感を得られる話題選

トークもさることながら、同番組の魅力は共感



「やる気のある人、募集中です」とふたり。



上／目標は宮地佑紀生さんのような明るいキャラクター、と坂本さん。
下／収録前のミーティングで段取りをきっちり整える。右端が加藤さん。



1部リーグ昇格で益々練習に熱が入る。

皇學館大学 弓道部

二十四年ぶりの一部リーグ昇格

皇 學館大学弓道部・男子の部が昨年十一月に行われた東海学生連盟秋季リーグにおいて、見事二部リーグで優勝し、一部リーグへの昇格を決めた。実に二十四年ぶりで、一昨年の二部リーグ最下位からの大躍進だ。

「精神面での強化に重点をおき、常に緊張感を持って稽古に臨む」と部員

古に励んできた結果」と主将の堀井佑二さんは語る。部員全員が稽古の一本一本にも本番の意識で臨むように徹底して練習してきた。

夏の合宿では早朝から夜間まで練習し、内容について意見を交換したり試合後は反省会を行うなど先輩後輩の枠を超えて何度も互いの意見をぶつけあった。その頃から部員たちの稽古に臨む真剣さが変わってきたという。部員の橋本さんは「これまで上級生の意見が絶対だったが、互いに意見を言いやすいシステム作りをすることで厳しく切磋琢磨しあえる仲間になった」と話す。

部活動トピックス



右から神谷さん、北原さん、相田さん。

めざすのは毎年十一月に伊勢神宮で行われる全日本学生弓道王座決定戦への出場。出場するには一部リーグの五校の中で一位にならなければならない。僕たちはまだスタート地点にたったばかり」と堀井さん。

現在は五月に行われる東海学生弓道選手権大会に向けて日々稽古に臨んでいる。

四月からいよいよ本格化 「おかげキャンパス・伊勢」始まる

本学では今年度から「おかげキャンパス・伊勢」をスタートさせる。この事業は伊勢全体をキャンパスに見立て、地元と連携した教育プログラムを展開することで地域全体の活性化を図ろうというもの。すでに関連する事業が一部で動いており、この四月から本格化させる予定だ。

地域密着型の教育プログラム

がある。

一部では関連するプログラムが始まっており、昨年十月に行われた「初穂曳」もその一つ。「地域文化論」の学外（体験）授業の一環として一年生を中心に約六百名の学生が参加した。教務委員長である新田均学長補佐は「学生たちが地元行事に積極的に参加することで、伝統文化を大切にしていた本学の教育方針を一層鮮明に示すことができる」と地域社会に根ざした教育プログラムを取り入れる意義を語る。

大学から伊勢の町を元気にしたい

本学では教育プログラムとしての展開のほか、生涯学習の機会を提供、ボ

ランティア活動をはじめNPOや行政と提携しての地域貢献などさまざまな方向への広がりを考えている。

建学の精神に則り地域に寄り添った「おかげキャンパス・伊勢」構想によって伊勢全体の活性化を図り、本学を含めた伊勢志摩地域全体のレベルを上げたい。ひいては、国内外における知名度や関心を高めたい。今後の発展に期待は膨らむばかりだ。



初穂曳には「地域文化論」の体験授業の一環として1年生が参加した。

昨

年四月に誕生した皇學館大学駅伝走部が今年から「部」に昇格。新生・駅伝競走部として本格的な練習に励んでいる。部員は現在三名。今春には四人の新メンバーが加わる予定だ。

部に格上げされたことで「結果を出すことに集中したい」と話すのは山内優樹コーチ。そのような思いが伝わるのか、部員も一様に「周囲の期待にはきちんと目に見える形で応えたい」と表情を引き締める。



人間性も磨く場になりたい、と山内コーチ。

作さんだ。相田達哉さんも「合宿など走る環境を整えてくれることに感謝」と口を揃える。北原崇志さんはメンタル面を鍛えて粘り強い走りをしてほしいと今後の意気込みを語ってくれた。

めざすはこの六月に開かれる全日本大学駅伝東海地区選考会での二位入賞。目標はあくまでも高く、ゴールに向かって彼らは今日も走り続けている。

活躍めざし「チーム」から「部」へ 皇學館大学 駅伝競走部